

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

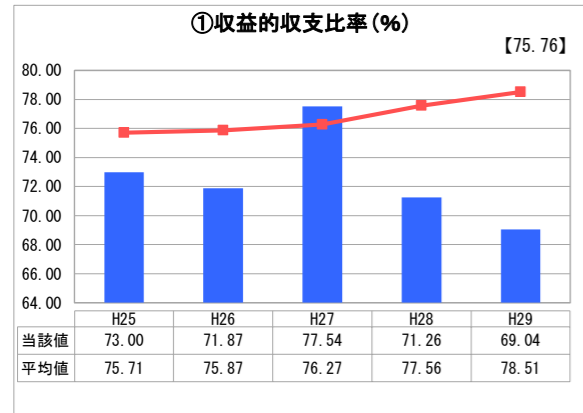
山形県 戸沢村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	99.36	4,935	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
4,704	261.31	18.00
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
4,626	169.02	27.37

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



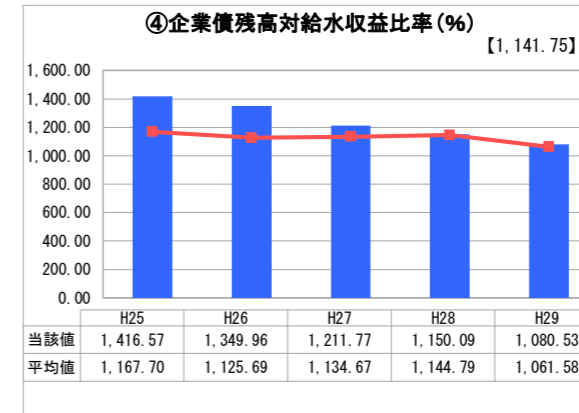
「単年度の収支」



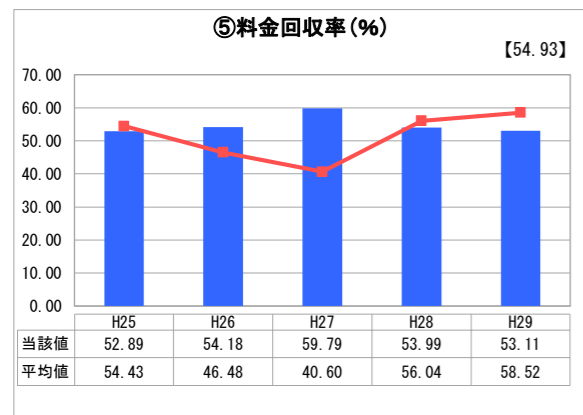
「累積欠損」



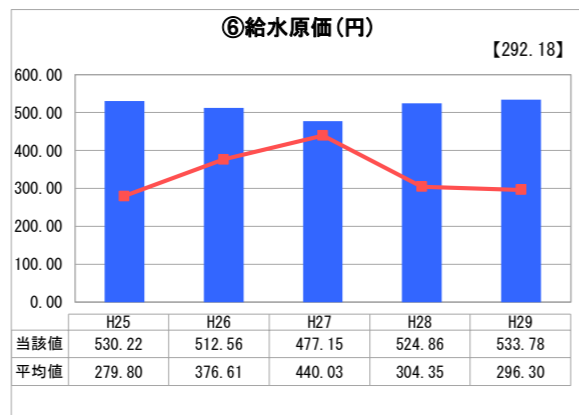
「支払能力」



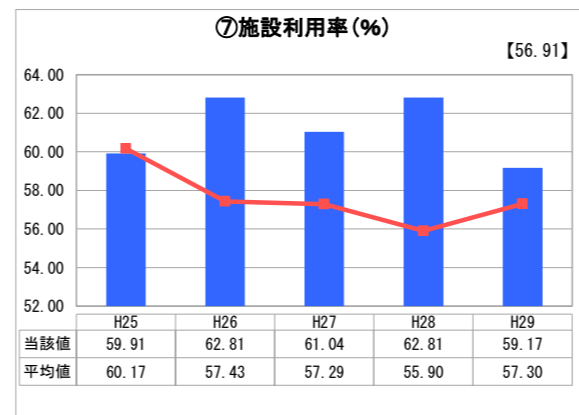
「債務残高」



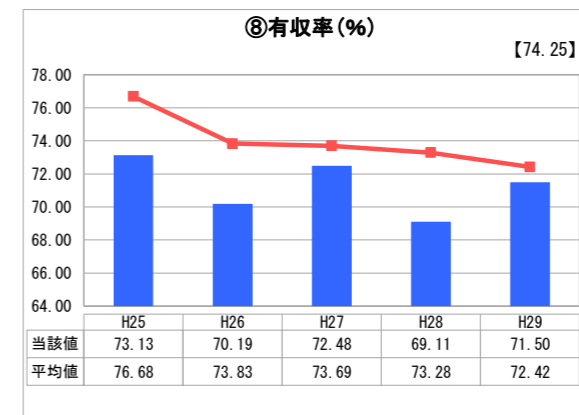
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

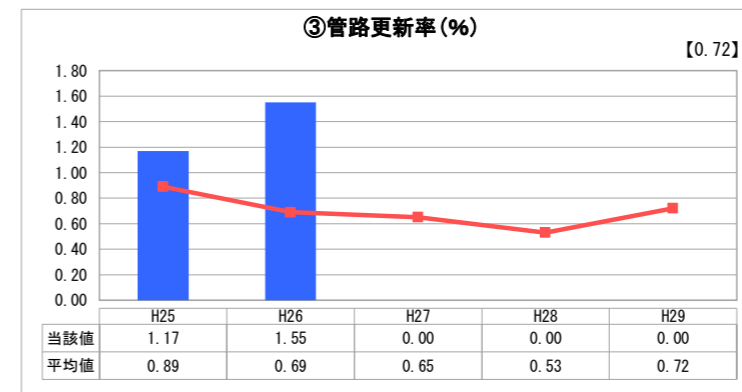
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率が類似団体平均値よりも小さい主な原因としては、平成26年度までに行った老朽管路更新による地方債償還金が多いことと、給水人口の減少に伴う料金収入の減少が挙げられる。また、高規格道路工事に伴う水道管の移設替を行ったが、15年ほど前に埋設した水道管であるため、実際の工事費と比べ補償費が約20%減となったことも要因の一つとして挙げられる。併せて、浄水場等のポンプのオーバーホールや更新を行ったため、例年に比べ、総費用が割高となった。料金回収率の減少に関しては総費用以上に地方債償還金が高いため、結果的に給水原価が高くなったことが原因である。また、年間総有収水量の低下も影響しており、給水人口の減少に伴って新鮮な水道水を維持するために必要な年間有効無収水量が増したことで、不明水が影響している。近年では、水道本管からの漏水は殆どなく、一般家庭等の老朽化した一次側給水管から漏水している事例が増えているため、定期的に漏水調査・修繕を行い、不明水の減少に努めていく。また、将来的に老朽管更新を行う際は配水管の口径・延長などダウンサイジングを考慮し、更新費用を抑えて行く。

### 2. 老朽化の状況について

平成26年度までに老朽化更新工事が一旦終了し、一部区域内に残っていた老朽管についても高規格道路関連工事に併せ敷設替を行った。今後は2040年頃に水道管更新のピークを迎えると思われるが、短期間に更新費用が大きくなる様、耐用年数、村内各地区の給水人口等を考慮しながら、管路のダウンサイジング等も踏まえ、計画的に実施していく。水道施設に関しては、昭和47年より稼働している草薙地区の施設の更新事業が始まり、基本設計は実施したが、実施設計および施工は、水道事業の経営状況と村の財政を鑑みながら実施して行く。

## 全体総括

収益的収支比率を改善するため、計画的な改良工事と維持管理を行い、業務の見直しや部分的な民間委託など事務の効率化を行う。料金収入に関しては、高額な滞納者が存在するため、社会情勢を考慮し福祉担当課等と連携しながら、電話での連絡や訪問を行い納付を促し、収納率向上に努めたい。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。